

## 第6章. 交換期限の提言

### 6.1 末端ガス栓の交換期限について

#### 調査結果から見た提言

(社) 日本エルピーガス供給機器工業会

(社) 日本エルピーガス供給機器工業会が総力を挙げて実施した『ガス栓経年変化調査』が関係各位のご協力に依り無事終了致しました事に感謝を申し上げます。

ガス栓の初期性能を長期間維持させることが設計者の想いではありますが、設置場所、設置環境及び配管工法等の要因が初期性能を低下（経年劣化）させることとなります。ガス栓長寿命化の為には消費者やガス販売事業者などによるきめ細かな維持管理が必要と考えています。ガス事故を未然に防止し、LPガス消費者に安全・安心をお届けするため、この結果から判明した幾つかの事柄と文献・資料そして業界各位から頂いたご意見を含め、次の様な提言を致します。

1. 一般消費者 LP ガス事故統計を見ても判るように、ガス用ゴムホースに絡む事故の多いことに気付きます。これを解決する方策としてガス栓の出口形状をホースエンドから迅速継手による接続にする事が保安上有効的と考えます。
2. 可とう管ガス栓を回収した中にねじガス栓が多数含まれておりました。可とう管ガス栓とねじガス栓の技術基準・用途の違いなどを販売・業務そして配管工事業者等に十分な広報が必要であると考えます。
3. ヒューズガス栓、可とう管ガス栓などが設置されている多くは屋内等の環境の良い場所が多く長期間の使用に耐えられると思います。報告書（ガス栓の回転力、気密、ヒューズガス栓の作動流量等）にもある通り設置場所、設置環境により機能が大きく左右される事が判明しました。例えば設置後 12 年～13 年辺りを境に可とう管ガス栓ではロック機構部の異常、またヒューズガス栓ではヒューズ性能の不具合が多くなる傾向にあります。この結果から、より確実な消費者保安推進のためガス栓の総点検を行ない次の3点を消費者の理解の下積極的に進めることが必要と考えます。
  - ① 既存のガス消費設備であってヒューズ機構のないガス栓を使用中の消費者に対し、平成9年4月1日の施行規則改正の趣旨を説明し安全性の高いヒューズガス栓への交換を勧める。
  - ② 既存のガス消費設備であってヒューズ機構のないガス栓に安全アダプターを接続して使用中の消費者に対し、平成9年4月1日の施行規則改正の趣旨と安全アダプターの機能を説明し安全性の高いヒューズガス栓への交換を勧める。
  - ③ この報告書を参考に設置後 15 年を経過したヒューズガス栓の交換を勧める。また、ガス栓の定期交換を容易にする為に、従来から懸案となっていたガス栓の入口部分の接続方法を改善し、業界統一の規格も検討すべきであると考えます。